

地域で医療的ケアを必要とする障害児・者と家族の生活を考える研修会

～知ろう・気づこう・考えよう・つながろう・ひろげよう生活の輪～

【開催の趣旨】

地域の中で医療的ケアを必要としている子どもの数は、年々増加し、重症化傾向にあります。しかし、医療的ケアを必要とする障害児・者の支援体制は、高齢者対策より充足しているとは言えず、様々な困難を家族で乗り切っているのが現状です。豊橋は、医療的ケアに関する研修会が少なく、今回は、「医療的ケアとは具体的に何?」「豊橋市の障害児・者の現状」や医療的ケアに関わる支援機関の役割と現状等を整理し、医療的ケアが必要な障害児・者と家族がどうしたら地域の中で安心して医療的ケアを受けながら生活が出来るのか?どのようなことが出来るのかを様々な地域や領域の方々と共に考える研修会を企画いたしましたので、ご案内申し上げます。医療的ケアと生活に対してご関心のある方のご参加をお待ちしております。

【開催の要綱】

1. 日 時 平成22年 8月29日(日) 9:50～16:15 (受付 9:30～)
2. 会 場 アイプラザ豊橋(豊橋勤労福祉会館) 小ホール・第1会議室
豊橋市草間町字東山143-6(豊橋鉄道渥美線 南栄駅より徒歩8分)
3. 主 催 豊橋医療的ケアを考える会
4. 後 援 豊橋市・NPO法人医療的ケアネット・豊橋障害者(児)団体連合協議会・豊橋市肢体不自由児(者)父母の会・難病のこども支援東海ネットワーク
5. 参加費 無 料
6. 定 員 150人 (午後の分科会②につきましては定員40名)
※定員になり次第お断りする場合がございます。
7. 申し込み 8月10日(火)までに担当 大林・大竹宛 FAX・E-MAILにてお申し込み下さい。
FAX:【 0532-32-2744 】 E-MAIL:【 hiromi@sozo.ac.jp】
8. プログラム
9:50～10:00 開会のあいさつ 大林博美(豊橋創造大学短期大学部准教授) (会場 小ホール)
10:00～11:30 ◆講演① 『医療的ケアって何? その現状と問題点』 (会場 小ホール)
NPO法人地域ケアさぽーと研究所理事 下川 和洋 氏
11:40～12:10 ◆報告 重度障害者の生活・医療に関するアンケート報告 豊橋市自立支援協議会
12:10～13:10 昼食休憩 (会場内には飲食店はありません。また付近にも数少ないです)
13:10～15:00 ◆分科会① 小シンポジウム『地域で医療的ケアが必要な子どもと家族の支援を考
える・つなぐ・つくる』 (会場 小ホール)
進 行 中神達二氏
アドバイザー 下川和洋氏
シンポジスト 障害児・者の家族、相談支援専門員、行政等下記5名の方がシン
ポジストとしてこの地域における生活の中の医療的ケアの現
状をお互いの立場から話をすすめていきます。また会場の皆様
からも多くの発言が頂けるようなシンポジウムを予定していま
す。
 - ・「医療的ケアが必要な子どもの日常生活について父親の提言」
野口和義氏(豊橋市肢体不自由児(者)父母の会)
 - ・「医療的ケアが必要な子どもの日常生活について母親の提言」
中神佐和子氏(難病のこども支援東海ネットワーク)
 - ・「医療的ケアが必要な障害者と相談支援事業所との関わり」
松井伸夫氏(たまも荘障害者生活支援センター相談支援専門員)
 - ・「重症心身障害児・者の訪問看護」
森田文子氏(豊橋市医師会訪問看護ステーション管理者)
 - ・「こども発達センターの役割」
榎本貴一氏(こども発達センター事務長)
 - ・「豊橋における医療的ケアの必要とする子どもへの支援のあり方・展望」
大林博美氏 豊橋創造大学短期大学部 准教授
- ◆分科会② 『医療的ケアに関する知識の習得』 <定員 40名>
アドバイザー 三浦清邦氏 (会場 第1会議室)
モデル人形を使用し、痰の吸引や経管栄養等の実施方法を先生に行って頂き
ながら解説して頂きます。また、希望の方には一部実際に体験して頂きます。
- 15:15～16:15 ◆講演② 『愛知県における医療的ケアを必要とする
障害児・者の現状と課題、展望』
豊田市こども発達センター小児神経科医・医療的ケアネット理事
三浦 清邦 氏

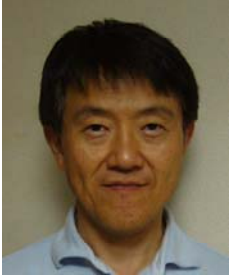
< 講師紹介 >

◆NPO法人地域ケアさぼーと研究所理事 下川 和洋 氏



初任地である村山養護学校に赴任以来、重い障害のある児童生徒たちの教育に携わる。その後、訪問学級の担任をする中で、医療的ケアの問題に深くかかわることになる。学校に指導医を配置して教師が医療的ケアにかかわる「救急体制整備事業」の先行事業として行われた「医療体制整備事業」において、村山養護学校がモデル校に指定され、校内委員および都教育委員会のハンドブック作成委員を歴任。2002年東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程（障害児教育専攻）修了。修士論文「医療的ケア必要児の教育の在り方についての一研究」医療的ケアや重度障害児教育に関する論文・著作多数。全国で講演に引っ張りだこの先生。今回は医療的ケアとは具体的にどのような行為なのか？そしてそれがなぜ社会的に大きな問題なのか？医療的ケアに関する基本的な解説からその歴史等について先生の活動を通じてわかりやすくご講演を頂く予定です。

◆豊田市こども発達センター 小児神経科医・医療的ケアネット理事 三浦 清邦 氏



平成3年から愛知県心身障害者コロニー中央病院小児神経科に勤務され、現在は豊田市こども発達センターのぞみ診療所副所長として、長年にわたり重度の障害児・者の治療に関わってこられました。特に医療的ケアに関しては平成17年度より愛知県教育委員会「養護学校における医療的ケア連絡協議会」委員を歴任され、学会活動でも日本小児神経学会の社会活動委員会委員として、またNPO法人医療的ケアネットの理事として、地域での医療的ケアについての取り組みが高く評価されています。小児神経学会専門医、日本てんかん学会認定医なども取得され、また、医療的ケアに対する書籍も多数発刊されており、この分野では愛知でも第1人者であります。今回は、障害が重くても地域で安心して暮らせるための医療的ケアをテーマに、わかりやすくご講演をいただく予定になっています。

< シンポジストのプロフィール >

- ・野口和義氏（豊橋市肢体不自由児(者)父母の会）
昭和38年12月12日（46歳）豊橋在住。三菱レイヨン勤務。子ども1人の家族5人（長女21歳重度障害）
- ・中神佐和子氏（難病のこども支援東海ネットワーク）
昭和59年次男が難病の亜急性硬化性全脳炎（SSPE）発病。その後福祉活動に携わる。平成7年豊橋難病児（者）の在宅療育を考える会（現在の難病のこども支援東海ネットワーク）設立。平成12年重度心身障害者の通所施設小規模作業所「オアシス」開所。平成17年オアシスを改組・社会福祉法人「ふたば」設立に携わり、現在に至る。
- ・松井伸夫氏（たまも荘障害者生活支援センター相談支援専門員）
大学を卒業後、特別養護老人ホーム・さわらび荘にて相談員として勤務、その後身体障害者療護施設珠藻荘にて支援員として勤務、平成14年よりたまも荘障害者生活支援センターにおいて在宅障害者の相談にかかわる。
- ・森田文子氏（豊橋市医師会訪問看護ステーション管理者）
名古屋市立大学看護学校卒業、南医療生協病院に10年間在職、病院から在宅へ患者さんを帰していく中で在宅療養の原点を学ぶ。その後、長男が小学校入学を機に豊橋へ転居。愛知県厚生連に10年間在職。平成10年4月から豊橋市医師会訪問看護ステーションに就職、現在に至る。
- ・榎本貴一氏（こども発達センター事務長）
昭和33年豊橋生まれ豊橋育ちの52歳。昭和55年豊橋市職員。水道局、教育委員会、市民病院を経て、平成17年こども発達センターと保健所・保健センターのプロジェクトに参加。平成22年4月こども発達センター事務長。
- ・大林博美氏（豊橋創造大学短期大学部 准教授）
現在、豊橋創造大学短期大学部・専攻科福祉専攻に所属。子どもから高齢者の医療福祉教育に携わってきた。現在、聖隷クリストファー大学大学院 後期博士課程にて、「地域で医療的ケアを必要とする当事者とその家族の生活機能の向上にむけた支援のあり方」について研究している。

< 期限 8月10日 >

申し込み票

(○をおつけ下さい)

FAX : 【 0532-32-2744 】 E-MAIL : 【 hiromi@sozo.ac.jp 】

氏名	所属・職種等	連絡先 (電話番号)	分科会の希望 ②は定員40名限り	託児の希望 (後日連絡します)	弁当の希望 (500円)
			① ・ ②	有 (医療的ケア有 無) 無	有・無
			① ・ ②	有 (医療的ケア有 無) 無	有・無
			① ・ ②	有 (医療的ケア有 無) 無	有・無

※当日はアイプラザ講堂にて pm2:00 ~ 3:00 までイベントがありますので午後は車の出し入れが難しくなることが予想されますのでご注意ください。またアイプラザ豊橋内にはレストランや売店はありません。
弁当・お茶付 (500円) もご用意させていただきますのでご希望の方は事前にお申し込み下さい。